

*** フォトよび ① 「絞り編」

写真の撮り方をお伝えしてきた当ページも刷新。デジタル一眼レフカメラの機能を使いこなして写真で表現する楽しさを味わおう！をキーワードに、「絞り」や「シャッター速度」など、撮影の基本を4回シリーズでご紹介します。

さて、雑誌やネットのグルメ情報で食欲を刺激する美味しそうな写真に出会いませんか。写真をよく見ると料理は、はつきりしているのに後ろの方がぼんやり。また、主役の花はくつきり背後はボケている花の写真も数多く見掛けます。

実はカメラの絞り機能を活用して撮ると、そうした写真のように背景

をぼかして写せるなど、同じ被写体でも見え方が大きく違う写真が撮れるのです。

第1回はこの絞りの効果とそれを生かす撮り方を、EOS学園でテーブルフォト入門講座などを担当している写真家・須藤夕子さんに教えてもらいました。

「光の量を調節する絞りとその効果」絞りとは、レンズ内の光が通る穴の大きさを変え、撮像素子に届く光の量をコントロールすること。絞りの調節によって被写体ははつきりと見える範囲（被写界深度）を変えられます。例えば、絞りを開放（レン

印象的にライチャーしたいから「絞り」を活用して撮る

EOS学園講師
須藤夕子さん



撮影情報 絞り: F5.6、シャッター速度: 1/40秒、測光モード: スポット測光、ISO感度: 100、オートホワイトバランス

ズのF値が小さい数値)にして撮ると背景をぼかすことができ、逆に絞り込む(F値が大きい数値)と手前から奥までくつきり写せます。

写真左下のマトリョーシカを撮った2枚をご覧ください。絞り値を変えると同じ被写体を撮っても、こんなに見え方が変わります。これが絞りの効果です。

「Av絞り優先AEで印象的に撮る」フルーツをつけ込んだ曲線がきれいな瓶。いい被写体をありふれた記録写真にしないために、手前の瓶と色鮮やかなフルーツに注目して撮ったのが左上の作例写真です。EOSデジタルのモードダイヤルは「Av」に、28.70mmズームレンズを70mmにして、後ろの瓶を形がわかる程度にぼかすため絞りはF5.6に設定。

ころ、作例写真では瓶の肩口にワンショットAEでピントを合わせ、シャッター半押しのAFロック状態で、瓶の曲線がいちばん美しく見えように構図を決めてシャッターを切りました。

「ひと工夫で気分はフォトグラフィア」瓶への写り込みが少ない角度を探し、女性的なフォルムの曲線がいちばん美しく見える位置を見つけます。



さらに光を均等に柔らかく被写体に当て、陰影が強調され過ぎないようにします。作例写真は日陰に瓶を移動しましたが、影の部分が光を反射させて照らす白い紙(レフ板)などを使ってみるのもいいでしょう。いつも見慣れているものでも絞りを変えて撮ってみると、新しい写真の表現に出会えます。挑戦してみてください。

絞り効果比較写真

F3.2(絞り値小)

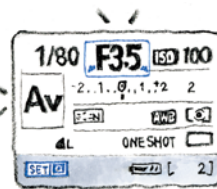


F13(絞り値大)



絞り値を変えると写真のような効果が表れる。絞り値を小さくした左は手前のマトリョーシカ1体だけにピントが合い、絞り値を大きくした右は4体ともくつきり写っている

Avモード時のクイック設定画面



EOSデジタルのAv(絞り優先AE)モードのAvはAperture Value(アパーチャーバリュー)の略。絞り(F値)を自分で決められるモードで、シャープに見える範囲が調整できる。シャッター速度はカメラが自動的に合わせる

楽しいフォトライフのための
EOS学園情報

EOS学園は、多くの方に写真の楽しさを知ってもらい、表現の可能性を広げるための写真教室です。プロの写真家を講師に招き、講義と実習による講座を、東京校、関西校、名古屋校で開催。基礎コースから上級者向けコースまで、レベルに合わせて多彩な講座が選べます。須藤夕子さんが講師を務める「テーブルフォト入門」や「EOS DIGITALで撮る子供ポートレート」講座は5月に開講します。●詳しくはEOS学園ホームページ「canon.jp/eos-school」まで。